

日本医史学雑誌 第64巻 第2号

目 次

第119回 日本医史学会総会・学術大会 演題目次

プログラム

特別講演

- I 島津重豪と薩摩・琉球の博物学……………高津 孝 119
II 辺境としての九州……………ヴォルフガング・ミヒエル 120

シンポジウム「人類と感染症の相克：医史学的見地から」

- 1 病原体と人類の相即弁証法
——仏教・西田哲学の視点から——……………吉田 眞一 121
2 ウイルス感染症の歴史
——新興感染症への対応力の観点から——……………加藤 茂孝 122
3 感染症と伝統医学……………鈴木 達彦 123

一般演題

- 1 『喫茶養生記』の茶と桑の意味……………岩間眞知子 124
2 『黄素妙論養生訓』について……………永塚 憲治 125
3 大正期女子歯科医学生の諸相……………永藤 欣久 126
4 渋沢栄一のフィランソロピー活動における医薬・医療・福祉との関わり
……………町 泉寿郎 127
5 明治期における緒方正清帰朝以前の大坂の産婆制度……………阿部奈緒美 128
6 「新出の刺絡専門書『痧脹晰義』について」の統報……………池内早紀子 129
7 藤木流の鍼灸書『信左隨身宝』の序文について……………竹内 尚 130
8 曲直瀬道三の妻・介石宗祐の系譜とその時代……………葉山美知子 131
9 太極図・陰陽論と中医理論
——易経と東洋医学との関わりⅡ——……………権藤 寿昭 132
10 松原一閑斎の瞑眩と治療……………松岡 尚則, 別府 正志 133
11 『十便良方』所載の鍼灸……………上田 善信 134
12 柔道整復術について……………清野 充典 135
13 曲亭馬琴の医学観と医者との交流
……………加畑 聡子, 星野 卓之, 小田口 浩, 花輪 壽彦 136
14 本居宣長記念館所蔵医書について
——元禄十年刊『本草摘要』など——……………吉川 澄美 137
15 産育習俗に関する基礎的一考察
——積善坊流修法資料にみる呪符について——……………坂本 陽子 138
16 『医心方』の「人神」について……………島山奈緒子 139
17 陳垣による中日医学交流……………郭 秀梅 140

18	日本統治時代の台湾医学会	張 秀蓉	141
19	『傷寒論』熱入血室における意味解釈の再考	莊 明仁	142
20	“沖縄＝伝統的長寿県”説の成立 ——沖縄県公文書館蔵『琉球政府第1回生命表』の分析——	逢見 憲一	143
21	生殖医学の観点から古代史を探る	江本 精	144
22	華岡青洲の医哲学に及ぼした吉益東洞の影響	松木 明知	145
23	医学史研究会	岡田 靖雄	146
24	明治10年前後の東京府の医療・福祉状況 ——東京府統計表に見る養育院と東京府病院——	稲松 孝思	147
25	武見太郎の描いたわが国の未来社会 ——昭和30年の「中央公論」論文から—— ……………丸井 英二, 杉田 聡, 田中 誠二		148
26	なぜ戦後すぐに母子健康手帳が日本で最初に作成されたのか? ……………中村 安秀		149
27	占領期日本の衛生教育に関する研究 ——Charles M. Wheelerによるレポートの検討—— ……………田中 誠二, 杉田 聡, 丸井 英二		150
28	ペスト菌DNAの進化から見たペスト流行史	加藤 茂孝	151
29	加門桂太郎の京都府醫学校での解剖学講義録について ……………島田 和幸, 内藤美智子		152
30	難波抱節旧蔵『医事古言』について	清水 信子	153
31	小倉領の種痘と再帰牛痘法	青木 歳幸	154
32	ブルーハーフェとハラールの「医学学習指南書」	澤井 直	155
33	馬場辰二の漢方と実学 ——和田啓十郎宛書簡から考える——	徳留 一博	156
34	明治中期日本における医療情報の受容 ——『順天堂医事研究会報告』における集団的評価——	月澤美代子	157
35	ニール・ロバートソン・ストレッチャーの起源は 戸塚環海が考案した簾状吊架である	柳川 鍊平, 坂井 建雄	158
36	“SERAT TARIMPON JAMPI”とインドネシアの伝統医療	安部 郁子	159
37	華岡青洲門人・小田順亭（魯庵）の墓誌銘の原史料と 毛利空桑全集収載の二次史料の内容	金谷 貢, 金谷 桂子	160
38	麻沸湯論條評 ——麻酔科医から見た華岡流全身麻酔法についての新しい資料—— ……………土手健太郎, 牧野 洋, 菊地 博達		161
39	国際麻酔科学史シンポジウムの歴史 ——第10回大会日本招致成功によせて—— ……………牧野 洋, 土手健太郎, 菊地 博達, 松木 明知		162

40	一枚の写真——明治23年お雇い外国人教師スクリバの第一医院外科 若き医局員9人のその後……………	高橋 薫, 高橋日出雄	163
41	明治政府お雇い外国人医師スクリバ博士の外科と植物 ……………	高橋日出雄, 高橋 薫	164
42	日本看護史の研究……………	山口 静子	165
43	江戸時代における大坂の女医……………	鈴木 則子	166
44	楊介『存真環中図』の成立と変遷について……………	三鬼 丈知	167
45	近喰流鍼法について……………	周防 一平, 小田口 浩, 花輪 壽彦	168
46	香川修庵『一本堂薬選』の成立過程 ……………	星野 卓之, 小田口 浩, 花輪 壽彦	169
47	『幽蘭堂年譜』と『升堂門生録』の関係……………	西巻 明彦	170
48	四国医療専門学校所蔵「紀伊国海部郡加太浦今井氏所蔵」 張子二体組銅人形について……………	松木 宣嘉	171
49	医家有馬家の系譜について……………	今井 秀	172
50	『刺絡編』の鍼法……………	鶴田 泰平	173
51	養生所等遺跡からわかった養生所の構造について……………	相川 忠臣	174
52	中国伝統医学と道教(第38回)「チャクラと奇経」……………	吉元 昭治	175
53	『桃山時代解剖之図』について……………	真柳 誠	176
54	江戸期河内地方の儒医たち その日常生活について——その二……………	田中 祐尾	177
55	合田大介の『紅毛醫述聞書』の概要……………	板野 俊文	178
56	ペラグラ——歴史の変遷と課題——……………	伊藤 泰広	179
57	医術開業後期試験の臨床実験問題と当時の時代背景について ……………	志村 俊郎, 都倉 武之, 寺本 明	180
58	近現代日本におけるダウン症候群と小児科学……………	大谷 誠	181
59	内科学教科書の結核記述の変遷と昭和期の日本の結核: 『内科書』を中心に……………	渡部 幹夫	182
60	医学士千原春甫の徳島県赴任と甲種徳島医学校の開校・廃校について ……………	梶谷 光弘	183
61	日本医科大学の前身済生学舎を創設した長谷川泰の思想的系譜 ——良寛の反骨精神に学ぶ——……………	殿崎 正明, 山本 鼎	184
62	『北越従軍銃創図録』について……………	山内 一信	185
63	国立病院機構の病院濫觴考察……………	福永 肇	186
64	ゲーテと医療(第3報) ——フーフェラント教授の人間像と彼に宿るゲーテ的ヒューマニズム—— ……………	鈴木 重統	187
65	トマス・バルトリンの『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』……………	安西なつめ	188
66	18~19世紀フランスにおける「病院医学」について……………	小林 晶	189

67	希望のよりどころとしての医史学 ——小児髄芽腫治療の歴史——	柳澤 隆昭	190
68	明治初期の宗教政策と精神病患者収容施設	橋本 明	191
69	宇田川榕菴は“Utriculi (of Malpighi)”を意識して“細胞”と造語した	佐藤 裕	192
70	伊東玄朴の改名とシーボルト事件	西留いづみ	193
71	地方藩医の長崎遊学～伊東救庵宛て書簡の検討	海原 亮	194
72	日本における医薬系博物館——類型化の試み——	野尻佳与子	195
73	キングス・コレッジ病院の創設と発展	柳澤 波香	196
74	『銃創瑣言』にみる看護	鈴木 紀子	197
75	長崎における牛痘種痘法接種者第一号である榎林建三郎の翻訳本	佐藤 利英, 樋口 輝雄	198
76	小坂精尊と長野県における民間の禁煙運動	石田 雅彦	199
77	筑後久留米藩軍艦千歳丸の医官（藩医）中山元朴は 西郷従道や長州藩桂太郎と北越戦争へ	中山 茂春	200
78	近世藩立医育施設と牛痘種痘の普及	鈴木 友和	201

誌上発表

79	『重校補註素問玄機原病式』の饗庭東庵注について	木場由衣登	202
80	池田京水『護痘要法』（1831）にみる痘瘡の看病法	平尾真智子	203
81	喉痺について	三浦 喬	204
82	『鍼道発秘』について	岩田源太郎	205
83	『寿世保元』の鍼灸	橋本 典子	206
84	西鶴作品にみる身体に関する語（六）	計良 吉則	207
85	ポンペにヤママユの蚕種を調達した医学生について	須長 泰一	208
86	『新刊通真子補註王叔和脈訣』の引用書について	水溜 亮一	209
87	死脈の変遷について	中川 俊之	210
88	若山健海と『種痘人名録』について	大西 雄二	211

投稿規定	217
編集後記	219